

民報あばしり

NO. 993

2014. 11. 2

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三三・四四五八
F 四三三・四四五七



日本共産党が演説会 「市民の声を届ける議席」

松浦・きくちを必ず市議会へ

10月25日、エコセンターで森つねと道国政相談室長を迎え日本共産党の演説会が開かれました。市議会は20日、議員定数を20人を4減し16人にする定数削減案を強行採決しました。

松浦市議は定数削減を主張する議員達は市民からの切実な請願に反対し、議員報酬や政務活動費引き上げには熱心であると批判。「多数を力に4減強行した勢力に市民の審判を下そう。」とよびかけました。

今期で勇退する飯田敏勝議員団長は後継候補きくち宏氏の勝利を訴えました。



声援にこたえる左から
松浦、きくち、森、いいだの各氏

きくち宏候補はこの間200か所で街頭から訴え、400人と対話した中で市民の生活が犠牲にされている実態を紹介。国や市政にこれらの声を必ず届けたいと決意を語りました。

森氏は、「アベノミクス」で物価や生活必需品が上がる、追い打ちで消費税が8%になり、年金など収入が減り、これに介護保険料が1割上ると「年寄りには死ぬと言っていることか」と年配のご婦人の声を紹介しながら、住民の生活が苦しくなっている中、市議会は市民請願の「消費税増税中止」や「機密保護法」・「集団的自衛権」中止の声を不採択にし、市民の願いを踏みにじってきたと指摘しました。

「国のやることは何でも賛成、市長提案もノーチェックで何でも賛成する会派や市議に市民の願いを託せません。日本共産党の松浦、きくち候補の若い時の苦労は市民の命綱として力強く頑張れる土台となっています。共産党の2議席は「市民の議席」「市民の宝」です、必ず議会へと送り出して欲しい」と訴えました。

松浦奮戦モ！

先日、後援会員宅で「お茶の間懇談会」をしました。今年1月に開かれた第26回党大会のようすを紹介した

DVDを見た後、日本共産党の話をしました。参加した方が、大会が4日間も開かれていることや外国の大使館から多数参加していることに驚いていました。9月議会の報告をする中で、議員定数削減問題について詳しく報告しました。来春の市議選は定数が16名になった。何としても16名の中に菊地さんと2議席を確保したい。きびしい戦いですが、後援会のみなさんのお力で何何でも勝たせてほしいと訴えました。

菊地東奔西走！

市内の党としては、久しぶりの演説会で候補交代ときくち宏・松浦敏司で2議席確保の訴えをしました。思えば鈴

木英子さんと4年間、松浦敏司議員と12年間、国の悪政の防波堤として、市政を監視し、限られた予算を市民のくらし・福祉の推進と身の丈にあった市の財政運営を求めて16年間頑張ってきました。今回ね70歳を区切りとして勇退しますが、かけがいのない議席を何としても後継の「きくち宏」さんに引き継いでもらうため、定数削減の荒波に負けず、残された半年間頑張ります。

菊地ひろし

日本共産党の志位委員長は、韓国のソウルの大学で、北東アジア（朝鮮半島、中

国、シベリア等）での、党の平和構想について講演しました。「平和と安定のための枠組みを作っていく努力の基礎となるのは、信頼」だ、信頼がなければ心通う対話はできない」と話しました。

最近、読者の方が、「最近の若い人の職場が派遣で働かされて、いつ首を切られるかわからない。こんな状態では働く者同士、そして雇主との間にも信頼関係が生まれ、関係が生まれる訳がない、信頼がなければ職場も、ひいては日本もうまくいかないのではないか」と話していました。経験を積んできた先輩の話は、心に残るものでした。

流水

「久子先生！」左の角を曲がったその方に思わず声をかけた。振り向いた先生、帽子を深くかぶりマスクをしていた。「ああ、あなた達ね。」互いに手を差し

伸べ握手！帽子をとった先生は、真つ白なショートヘア。色白の肌と澄んだ瞳とその声は変わらず。●60年前、セーラー服に身を包んで中学生になった1年間だけ担任だった恩師。私たちは13歳、先生は21歳の出会いだった。●時は流れて、「すい臓ガンで、ほかに転移していて、レベルIVであること」を知ったとき、まさか抗ガン剤の治療でここまで元気になれるとは思わなかった。そしてあの時の「想いで」の記で、60年ぶりの再会！自分がガン患者であることを忘れる程、楽しく嬉しい一時だった。迷惑をかけてしまったが、ありがたかった。」と、帰郷後FAXが届く。●やんちゃ盛りの騒音は2階の教室から、その下1階の校長室に呼ばれる新卒1年目の数学担任は、駆け上がって52名の前で叱咤。どんな思いで勤務していたのだろうか。記憶に残っていない私たちは、それぞれ膝の故障、バセドー氏病、手首骨折を抱えた70代。先生は「みんなを怒ってばかりだったことを申し訳なかった。」と、嘆いていた。外側は健全に見えるが2週に1回の放射線治療を受け、前を向いていることに励まされた。●思いついたらためらわずその場で一歩を踏み出せ。年齢のことなど考えるな。心して一瞬一瞬を大切に丁寧に日々を運べ。生きていくそのことを何よりも喜ぶのだ。飽かず続けよ貫けよ。せつかくの一日だ決して無駄にするな（徒然草より）く又の再会を願っている（て）